

日刊

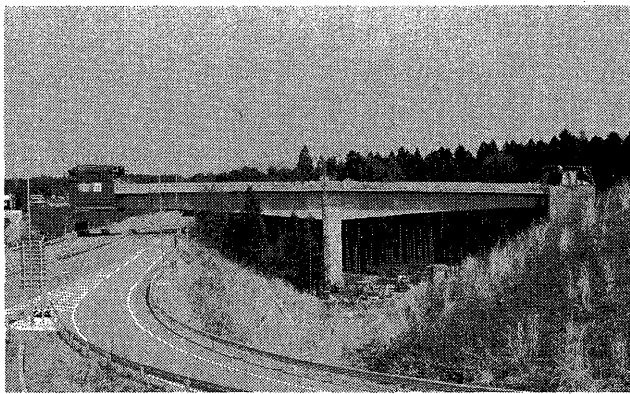
産業新聞

Japan Metal Bulletin

日光・バイパス高架橋工事 「3Sシステム」が採用

日綜産業

川田建設と戸田建設が共同事業体(JV)で施工を進める「国道121号・板橋バイパス土沢高架橋工事」(発注：栃木県県土整備部 日光土木事務所、塚本



「てんびん」のように両側に張り出す外観が印象的

俊一所長)に、日綜産業(本社)東京都中央区、小野辰雄社長の出荷したシステム足場支保工「3Sシステム」が活用されている。このほど報道向けの現場見学会を開催し、施工の様子を公開した。

同現場の施工は日光宇都宮道路とJR日光線をまたぐ関係から、中心となる1本の橋脚から両側に伸びる形の片持架設工法を採用。高架橋は日光宇都宮道路の上部に張り出してあり、建築限界高さの4・1mを確保するために下段作業台をなくし、3Sシステムを用いた吊り構造の特殊足

場を形成している。多目的折り畳み式昇降階「ドッキングタワー」も1基(高さ25m)設置。安全で快適な昇降を可能にしており、作業員から好評を得ている。

特殊な作業環境を持つ現場だけに、アイデアマンの塚本所長は様々な工夫を実行。張り出し部分から下の道路に向け監視カメラを設置し、携帯電話で常時確認できるシステムを構築した。さらに、冬季は雪解け水がつからなくなり道路に落下する懸念もあったため、内側に水が集まる仕組みを作った。また、パイプに蛍光灯をつないで作った「竹やりライト」も独自に製作。桁高が最高6mあった作業現場でも、下部のコンクリートの打設状況を確認しやすくするなど作業環境の改善に注力した。

特殊な作業環境 現場に創意工夫

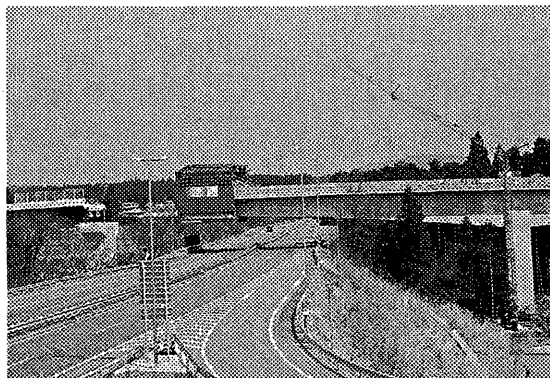


自他ともに認める
アイデアマンの塚本所長

国道121号 土沢高架橋で現場公開

日綜産業

吊り構造の特殊足場採用



日綜産業は28日、同社のシステム足場支保工の「3Sシステム・オクタゴンシリーズ」などが採用された「国道121号土沢高架橋(仮称)上下部建設工事(PC橋)」(日光市土沢地区)の現場を報道陣に公開した。写真。

上下部の一式工事では、施工は川田建設・戸田建設が担当。上部工は日光宇都宮道路とJR線をまたぐため、張り出し架設工法で施工している。橋形式は2径

間連続ラーメン箱桁橋(橋長147.7m)。進捗率は上下部工合わせ約80%。工期は12月28日まで。

工事の特徴は、張り出し施工時に日光宇都宮道路の建築限界高さ(4.1m)を確保するために、下段作業台をなくし、吊り構造の特殊足場を採用したこと。特殊足場に3Sシステム・オクタゴンシリーズが納入されている。

の塚本俊一所長は、「特殊足場は現場作業員にも好評を得ている。私自身、入社以来38年の集大成となる現場であり、地域のシンボルとなり感動を与える橋を完成させたい」と意気込みを語った。

下部工基礎の構築は、当初はオープンケトン工法を予定したが、巨石の出現により、ニューマチックケトン工法に変更。水深20mに匹敵する気圧の中で施工する厳しい状況で完成させた。

建設通信新聞

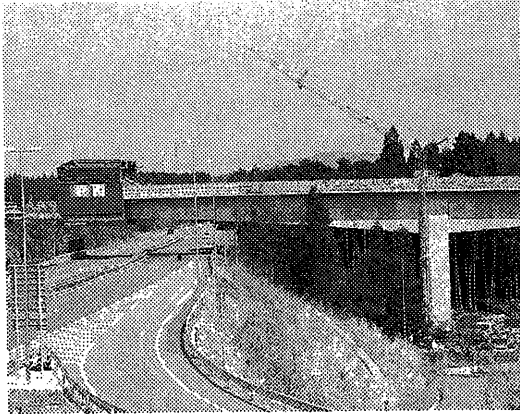
Architectures, Constructions & Engineerings News (Daily)

2012年(平成24年)4月6日(金曜日)

(第三種郵便物認可)

道路の上を高架橋が伸びる

日光宇都宮道路の真上を、片持架設で施工している高架橋が、やじろべえの腕を伸ばすように、少しずつ張り出している。施工を担当している川田建設・戸田建設JVは、JR日光線の上もまたぐ工事のため、24時間監視システムや



日綜産業製品で安全施工

川田・戸田JV板橋バイパス

日綜産業の足場支保工を珍しい吊り構造に採用するなど、安全には特に配慮している。

国道121号板橋バイパス土沢高架橋工事(栃木県日光市)は橋長が147m、上下部一式で2009年3月に着工した。下部基礎の工法変更で工事が一年半中断したが、12年12月28日の完成を予定している。

張り出し部分は左右各19ブロックに分けてコンクリートを打設、現在は16ブロック目を工事中で、5月には打設が完了する予定だ。日光宇都宮道路の上空を施工中のため、高さ制限違反の車による衝突事故があれば、リアルタイムで通報する監視システムを運用している。

日綜産業の製品は、足場支保工の「3Sシステム」が、張り出し部分で吊り構造の足場として使われ、橋脚の横には多目的折りたたみ式昇降階段「ドッキングタワー」を設置している。いずれも使い勝手や安全性の面で、作業員から好評を得ている。



川田建設東京支店の塚本俊一 所長「写真」は、「感動」を大切に工事に取り組んでいる。発注者やユーザーに対してだけでなく、「安全に施工することは当たり前だが、作業員から(無事完成して)良かった」と喜んでもらえることも感動の一つと強調する。

塚本所長は施工に役立つさまざまなものを発明、アイデア所長で知られているが、6月に定年退職のためこの現場を「38年間の集大成」と位置付け、無事故・無災害での完成を目指している。